

AI活用 100本ノック

#001-100
:DeNA

※「AI活用100本ノック」の内容はXでの事例公開時点のものです。AIツールの仕様変更、モデルの急速な進化によって日々効果的な活用方法が変化していくことにご注意ください。

※これらのAI活用事例は、それぞれ生成AIに関する社内ルールを順守した方法で運用を行っており、また透明性、公平性、プライバシー、品質、そして人間の監督を重視した当社のAIポリシーにも準拠しています。

NotebookLM活用でWebサイト参照が爆速化 法律やガイドラインの理解を深め、資料作成の強力な アシスタントに！

課題	解決策	成果
<p>公開されている法律やガイドラインなど、内容を体系的に整理することに時間がかかっていました。</p> <div>複数のサイトを開いて比較したり、内容を読み込んだりする手間が大きな負担でした。</div>	<p>参照したいWebサイトのURLを NotebookLMにソースとして追加。関連 キーワードで質問することで、該当箇所 を抜粋させ、その要約を生成させます。</p> <div>知りたい情報を質問としてプロンプト入力するだけで、 NotebookLMがWebサイトの内容を瞬時に解析し、必要 な部分を抽出してくれます。</div>	<p>個人の読解力に依存せず、情報のイン プットを効率化し、より本質的な思考 や創造的な作業に注力できるようになり ました。</p> <div>資料作成時に要点を参考にすることで、効率的に作 業を進められるようになりました。</div>

利用者の声

もう手放せません！法律等の参照がこんなに簡単になるなんて。もちろん、最終確認は必須です。

Gemini活用のGoogleドライブ連携

Googleドライブから、情報がすぐ手に入る「賢いPDFリーダー」

課題

大量のPDF資料から特定の情報を探し出すのに、時間と手間がかかっていました。

手動での資料検索では、重要な情報を見落とすリスクがありました。英文資料では、専門用語の解釈に時間がかかることもありました。

解決策

Googleドライブに保存されているPDF上でGeminiを開き、内容に関する具体的な質問を入力します。

「XXの条件に当てはまるものは何か？」といった質問をすることで、GeminiがPDFの内容を分析し、最適な回答を導き出します。

成果

知りたい情報にすぐにアクセスできるようになり、情報収集にかかる時間を大幅に短縮できました。また、英文で記載されたPDFも和訳して回答をくれるため、英文解釈にかかる時間も短縮できました。

利用者の声

ページ数が多いPDF資料の中から、必要な情報を瞬時に見つけるのがとても楽になりました。とても助かっています！

GitHub Copilot code review活用

コードレビューの負担を軽減！品質向上も

課題

コードレビューは品質確保に不可欠ですが、手動でのレビューは時間と労力がかかり、開発のボトルネックとなることがありました。

レビュー担当者の負担も大きく、効率化が求められていました。

解決策

GHECのリポジトリをGHEC（GitHub Enterprise Cloud: EMU版）へ移行し、GitHub Copilot code reviewを使った自動プルリクエスト（PR）レビューを実施しました。

AIがプルリクエストの内容を自動で解析し、改善点や潜在的な問題を提案することで、レビュープロセスをサポートします。

成果

PoC（概念実証）段階ですが、精度は業務利用に十分なレベルです。

利用者の声

実装されれば、コードの品質向上とレビュー担当者の負担軽減につながると感じています。

生成AI活用で画像表示ツールを自作
ビジネス職でも安心！プログラミング知識ゼロから
Chrome拡張を開発！

課題	解決策	成果
<p>セキュリティリスクを考慮したOGP画像表示ツールが必要でしたが、既存のツールではセキュリティ要件を満たせないという課題がありました。</p> <p>特に、ソースコードの内容を自身で確認できるツールが求められていました。</p>	<p>生成AIに、必要な機能要件とセキュリティに関する要望を伝え、Chrome拡張機能としてOGP画像表示ツールの開発を依頼しました。</p> <p>プログラミングの専門知識がない状態でも、AIが要望を理解し、ツールを生成してくれました。</p>	<p>作成されたツールをエンジニアにレビューしてもらい、その後検証で利用を開始。必要な画像テストを安全に実施する事ができました。</p>

利用者の声	セキュリティに配慮しつつ、必要な機能を備えたツールを自作することができました！
-------	---

Gemini活用で動画での学習を効率化 勉強会動画から簡単に「用語集」を作ってみた件

課題	解決策	成果
社内勉強会の動画には専門用語が多く含まれており、視聴者が内容を理解するのが難しいという課題感がありました。用語の意味を調べる手間も負担でした。	Geminiに勉強会の動画をそのまま添付し、「この動画内で言及されている〇〇分野の用語集を作ってください」と指示しました。	動画の内容に沿った専門用語集を素早く簡単に作成でき、視聴者は効率的に用語の意味を理解できるようになったと思います。

利用者の声

何が専門用語なのかも客観的に判断するのが難しいですが、生成AIを用いることで利用者目線のアウトプットをスピーディーに作成することができました。

Meet・Gemini・NotebookLM活用

議事録工数をほぼゼロに！会議後の関連業務も自動化

課題

会議の議事録作成や欠席者への情報共有、上長への報告業務などが負担になっていました。

本業に集中したいメンバーにとって、議事録作成はルーティンながらも軽視できないタスク

解決策

MeetとGeminiで会議の文字起こしを自動化し、その結果をNotebookLMに集約・ストックしました。

成果

議事録作成に関わる工数をほぼゼロにすることができ、次回の議題作成や情報共有、報告といった関連業務まで効率化できました。

利用者の声

会議後の議事録作成や情報共有のストレスが完全に解消されました！もう手作業には戻れません。

NotebookLMのマインドマップ活用 企画検証が劇的に進化する「AIマインドマップ」

課題

企画の振り返りにおいて、検証項目が膨大にあり、各企画に対して最適な検証項目の選択に時間がかかっていました。また、見るべき数字も一辺倒になりがちでした。振り返りに時間がかかり、検証の内容も浅く、次の企画に活かしきれないという課題がありました。

振り返りに時間がかかり、検証の内容も浅く、次の企画に活かしきれないという課題がありました。

解決策

NotebookLMのマインドマップ機能を使って、企画の振り返りの検証項目を図式化しました。

見るべき数字の抽出方法と、その順番を視覚的に整理しながら進められるようになりました。

成果

マインドマップで視覚的に整理することで、企画において追いかける数字が多角的になり、見過ごしていた検証指数の枝に気づくことができました。これまで浅かった検証を深掘りできるようになり、具体的な改善案を複数出せるようになりました。

利用者の声

データ分析への苦手意識がなくなりました！

Cursor + 画像入力で分析コード作成を高速化 データ分析のスピードが格段に上がる！ 「SQL自動生成」

課題

データ分析を行う際、自然言語で書かれた分析の要件定義書を分析メンバーが解釈し、SQL文に変換する必要がありました。この変換作業の解釈には一定の経験が必要かつ、時間と手間がかかるため、開発のボトルネックとなっていました。

スプレッドシートの情報はYAMLやMarkdownなどの形式に変換してからAIに処理させる必要があり、手間がかかります。

解決策

Cursorにスプレッドシート上の分析の要件定義書を画像として入力し、その情報を元にSQLの自動生成を行いました。

AIが処理しやすい形式への変換が不要になり、言語やテーブル・カラムの背景情報はプロンプトで補完することで、より高精度なSQL生成が可能になります。

成果

まだ検証段階ですが、SQL自動生成が実用化できれば、分析メンバーはSQLの解釈・作成ステップが不要になり、レビューのみで済むようになります。

利用者の声

スプレッドシートのデータからSQLが生成されれば、分析のスピードが大幅に向上し、本質的な分析に注力できます。

GeminiのDeepResearch活用術

口コミをAIが網羅的に分析！レポート作成作業が 4時間→30分に

課題

週次ソーシャル報告レポートの作成に、最大で4時間もの時間がかかっていました。

口コミ収集と要約が大きな負担でした。

解決策

Geminiの DeepResearch機能を利用して、ネット上の口コミを網羅的に調査しました。その後調査結果をトピックごとにAIが要約します。

成果

レポートの作成時間が30分程度に短縮されました。

利用者の声

要約された情報をスライド資料にコピー＆ペーストするだけで、高品質なレポートが完成します。

NotebookLM活用

法令解釈の内容を読み込ませ、共有用ポッドキャストを作成

課題

複雑な医療関連の法令を理解するのに時間がかかっていました。引継ぎの際にも、過去に調べた内容を忘れてしまい、資料を読み返す作業が必要になっていました。

解決策

NotebookLMに法令等の解釈の内容を読み込ませ、簡易的なFAQを作成。さらにそのFAQをポッドキャスト化しました。

成果

難しい話題も、ポッドキャストを利用して耳からも得られる事で、より理解しやすくする事が出来ました。

他のチームにも共有され、業務効率化に役立てられています。

利用者の声

特に、ポッドキャストはAIの使い方としても面白いという事を反応を頂き、音声で聞くことで「スッと内容が入ってくる」と関係者からも良い反応を得られています。

Geminiでファイル名変更を瞬時に完了！
面倒なファイル名の変更作業をGASのマクロ作成＋
ターミナル入力で一瞬で終わらせる

課題	解決策	成果
<p>お客様から受領したファイルやこちらから送付したファイルを、毎日手作業で「日付__プロジェクト名__会社名」というルールに沿ってリネームしていました。数が多く、非常に面倒で時間のかかる作業でした。</p>	<p>Geminiに「大量のファイルをリネームしたい。簡単に実行する方法を教えて」と相談。スプレッドシート上でファイル名を一括変更できるマクロ（GAS）とターミナルのコマンドを作成してもらい実行しました。</p> <div>「こういうルールでファイル名を変更したい」と伝えるだけでマクロのコードを生成してくれました。</div>	<p>手作業で行っていたリネーム作業があったという間に完了するようになり、作業時間を大幅に短縮できました。</p> <div>手作業によるミスもなくなり、業務の正確性も向上しました。Geminiのマクロは本当に正確で助かります。</div>

利用者の声	面倒だと思っていた単純作業から解放されストレスが大きく減りました。
-------	-----------------------------------

GeminiでGAS作成&JIRAを自動起票で効率化！
Slack通知をきっかけにJIRAチケットを自動で起票する

課題	解決策	成果
セキュリティに関する相談やインシデントが発生した際、Slackで通知を受け取った後に、手動でJIRAのチケットを作成する必要がありました。この作業は定型的ながらも手間がかかっていました。	Geminiに依頼して、特定のSlack通知を対象に、JIRAチケットを自動で作成するためのスクリプト（GAS）を生成してもらいました。	チケットの起票漏れがなくなり、かつ案件管理にかかる工数を大幅削減できました。 <div>手作業がなくなったことで、本来のセキュリティ業務により集中できるようになりました。</div>

利用者の声

AIにスクリプトを生成してもらうことでプログラミングの手間なく自動化・効率化を実現できました。

CursorやClaude Codeに博多弁の口調や人格を設定 AIを話しかけやすい人格にすることで コーディング効率UP！

課題

AIとの対話で意図しない出力にストレスを感じたりすることがありました。

デフォルトのAIだと返答があまりに機械的で、「仕事感」を強く感じていました。

解決策

AIコーディングを始める際に、最初に喋り方の変更に手を付けました。

「博多弁で話す美術や落語などに詳しいAI」として口調を設定することで、システム設計を美術作品に例えるなどユニークな出力が増えるように調整。

成果

通常の機械的な返答だった頃に比べてAIに話しかけるハードルが下がり、「まずはカジュアルにAIに相談しよう」という思考になりました。

CursorでもClaude Codeでも同じMarkdownの設定ファイルを読み込んでくれて、互換性もバッチリ！

利用者の声

変な出力にも「この子かわいいな」とか「ちゃんと指示できてなくてごめんね」という思考になり、精神衛生が向上しました。

ChatGPT活用で研修教材を作成！

短期間で研修教材を作成し、時間とストレスを大幅削減

課題

2時間×2日間のPM研修教材を短期間で作成する必要があり、構成の検討や頭の中のアイデアを整理することに大きな負担を感じていました。

トークスクリプトの作成もプレッシャーの原因となっていました。

解決策

考えをChatGPTに書き出し、構成やアジェンダ作成の壁打ち。作成した資料をChatGPTに読み込ませ、時間配分に合わせたトークスクリプトの参考案を作成してもらいました。

成果

教材作成時間の短縮とストレスの緩和に繋がりました。さらに、作成したものをSAI（社内生成AI）やNotebookLMに読み込ませて研修参加者や参加者以外の社内メンバーに資料とともに公開して、独自の生成AIを作成してもらえるようにした事で、PMの基礎ナレッジや業務Tipsを多くの人に広げる事が出来ました。

利用者の声

自分自身の頭の整理や壁打ちに役になり、文章構成の検討を時短で行う事が出来た。難しい内容も「優しく答えて」などプロンプトの記載でより利用者に沿った形でPMナレッジを理解する事ができました。

HRもGeminiをフル活用！人事情報の共有をスムーズ&セキュアに実現！ 全社の異動情報をGASで自動可視化！ 複雑なデータもAIで整理

課題

全社の異動情報がCSVデータで管理されていましたが、情報が分かりにくく、そのままでは各部門のマネージャーに必要な情報だけを共有することが困難でした。

例えば、一人の社員の異動が「元部署の削除」と「新部署の追加」の2行で表現されるなど、直感的に理解しにくいデータ構造でした。

解決策

Geminiと対話しながら、実現したいアウトプット（部署ごとに異動情報を整理し、権限管理されたシートに展開する）を伝え、それを実現するためのGAS（Google Apps Script）を作成してもらいました。

AIに依頼することで、CSVの複雑なデータを自動で加工・整形し、見やすい形に変換する処理を実装できました。

成果

全社の異動情報を部署ごとに自動で抽出し、該当部署のマネージャーだけが閲覧できるスプレッドシートに展開する仕組みが完成。情報共有がスムーズかつセキュアになりました。

シートの管理や権限設定もGASで自動化でき、手作業による管理コストを大幅に削減できました。

利用者の声

これまで手作業で加工していた複雑なデータが、AIの作ったGASによって自動で整理され、情報が格段に見やすくなりました。プログラミングの知識がなくても、AIとの対話でここまで出来ることに驚きました。

画像をGeminiで取り込みカレンダーに自動登録！

日付部分の画像を送るだけでGeminiで カレンダー登録が完了！！

課題

複数の予定や、数ヶ月先の予定をGoogleカレンダーに手で一つずつ入力するのは手間がかかっていました。特に、イベントのチラシなど、紙のものをしながら入力するのは面倒でした。

イベントチラシの日時部分や、メールの日時スクショなどの画像を活用できないかと考えました。

解決策

Geminiアプリに、スケジュールの写真やスクリーンショットを送って、「これをカレンダーに入れて」と依頼するだけで、自動で予定を登録してもらえます。

「カレンダー登録用のGem」を作成しておくと、「カレンダーに入れて」と毎回言わなくても、画像や予定の日時を送るだけで意図を汲み取って登録してくれるようになります。

成果

手動でカレンダーに入力する手間が大幅に削減され、時短につながりました。

複数の似たような予定を一度に登録したい場合も、Googleカレンダーで直接操作するより早く完了できます。

利用者の声

カレンダーに入りたいイベントをスマホで撮って送るだけで、面倒なカレンダー登録作業が終わるのは本当に楽です。AIのおかげで、スケジュール管理がよりスマートになりました。

Cursor と Claude Sonnet 4の連携

データ連携作業を自動化し、数人日分の工数を削減！

課題

WebUIから手作業でのデータ連携作業は、時間と労力がかかっていました。

解決策

データ連携を自動化するスクリプトを開発。

AIにコードベースの調査、実現案の検討、そして実際のスクリプト実装までを依頼。

成果

コードベースの調査から実現案の検討、実装までの一連の作業を、本来数時間を要するところわずか30分で完了することができました。

利用者の声

工数を、おそらく数人日単位で削減できました。

デザインツール初心者がGemini活用でモック作成！ 企画の解像度アップ！AIとの対話でモックアップ 作成が3日も早くなった

課題

新しい企画のモックアップ（試作品）を作成する際、企画要件を読み込んでから自分で画面構成を一から考える必要がありました。この初期段階の作業に多くの時間がかかっていました。

ビジネス職で、デザインツールを初めて使う状況でした。

解決策

Geminiに企画要件を伝え、「最低限必要な画面は？」「画面に必要な要素は？」「わかりやすくするにはどうしたら良い？」といった質問を投げかけ、対話しながらモックアップの構成案を作成してもらいました。

AIに画面構成の6割程度のたたき台を出してもらうことで、ゼロから考える手間を省きました。

成果

肌感覚で約3日かかっていた初期の画面構成案の作成が、AIとの対話を通じて大幅に短縮されました。また、動くモックを作る事により、他のメンバーとの意思疎通の時間も一気に短縮できました。

ツール自体の使い方不明な点も、画面のスクリーンショットを撮ってGeminiに質問することで、すぐに解決！

利用者の声

AIが壁打ち相手になってくれることで、思考が整理され、企画の解像度も上がりました。結果的に、より質の高いモックアップを効率的に作成することができ、非常に効率的でした。

Geminiでコピーライティングの考え方とワーディングを分析 コピー未経験者でもAIで良いコピーは書けるのか？！ コピーライターが検証

課題

AIにコピーを依頼すればすぐ何案でも生成できますが、目的に叶った案の選択や品質担保は未だ経験が必要です。

コピー作成は本来ターゲットと目的に沿って表現やワーディングなどの手法を組み合わせで検討していくもので、ロジックや経験を必要とする

解決策

Geminiにコピーライターであるという設定と世の中に出ているコピーを与え、その目的とコピーの構造、ワーディングを分析してもらい、そのフレームワークにならってコピーの案出しをしてもらいました。

成果

コピーライターの観点や思考法をフレームワークにすることで一定AIによるコピーの精度や効率は上がります。

利用者の声

生成AIと相性の良いコピー（テキスト）で取り組んでいますが、クリエイティブのロジックやフレームワークをAI活用プロセスに導入することでクリエイティブ職以外の方でも良い品質の成果物を得られるようにしていきたいです。

Gemini/LangChain活用で障害対応を効率化！

ネットワーク障害アラートの初動対応を自動化 するエージェント開発

課題

ネットワークインフラ機器から障害アラートが発生した際、その影響範囲の特定や原因の調査に人手と時間がかかっていました。

24時間365日、いつ発生するかわからないアラートに迅速に対応する必要がありました。
障害解決の対応そのものと同じくらい、影響範囲の特定・原因の調査が高い負荷となっていました。

解決策

GeminiやLangChainを活用し、アラート情報を自動で取得・分析するエージェント「NOA」を開発。アラート内容から影響範囲や原因の仮説を立て、ネットワーク機器からのデータ収集と仮説の検証を行います。

本エージェントは、即時的／中長期的に対応すべきことを分けて提示してくれるように設計しています。仮説の検証結果や機器同士の接続情報等に基づく最終的なアラートの重要度、即時対応の要否を根拠と確信度と共に提示する能力も有しています。

成果

人間が介入すべき点を的確に提示してくれるため、障害対応の初動を大幅に効率化できました。エンジニアはより高度な判断や根本解決に集中できるようになりました。瞬間的な障害や即時対応不要なアラートはエンジニアへの通知を抑制し、より重要なアラート・業務に集中できるようになる機能拡張が進行しています。

PoC/α版の段階ですが、今後の運用負荷軽減に期待が持てます。

利用者の声

これまで手動で行っていたアラート発生時の一次調査が自動化され、人間は最終確認と対応に集中できる。
これにより、障害対応のスピードと質が向上しました。

ObsidianとCursorの連携

Obsidianでのタスク管理をCursorに任せて、更新漏れなし！

課題

手動作業では、タスク・プロジェクト管理の煩雑さと更新漏れがありました。

複数のプロジェクトを抱えていると、全体像の把握が難しくなります。

解決策

Cursor連携することで、Obsidianに「やったこと」を箇条書きするだけで、進捗管理や情報整理を自動で行ってくれます。

成果

更新漏れゼロ！プロジェクトの情報が集約されるため、自然とタスクもCursorに任せられるようになりました。

利用者の声

プロジェクトの全体像が常に明確になり、効率的な進行が可能になりました。

Geminiがイベント運用をサポート

イベント企画から実行まで、AIがあなたの右腕に

課題

KPI設定、施策の検討、取材対応、進行管理など、時間と労力が大きくかかっていました。

解決策

KPIの考え方や施策の壁打ち、取材内容、スケジュール設計やToDoの洗い出しなど、多角的にAIへ相談。

成果

企画・実行の効率化と運営品質の向上、負荷軽減に繋がりました。

利用者の声

他業務の合間に検討する事ができ、まとまった時間が不要で便利です。

Cursor + Claude Sonnet 4でログデータ分析用スクリプトの作成

Cloudwatch Logsの非構造化データから業務問題を洗い出し

課題	解決策	成果
大量の非構造化ログデータの中から、業務上の問題につながる特定の情報を手動で探し出すのは至難の業。	業務上問題があるデータを洗い出すためのPythonスクリプトの作成を依頼しました。 <div>一度きりの「書き捨て」スクリプトを書いてもらっています。</div>	問題の早期発見と迅速な対応が可能になりました。

利用者の声

担当者も「いつも大変お世話になっております！」と大絶賛。

脆弱性レビューはもちろん、パフォーマンスや設計のレビューもお任せ！

Gemini 2.5 Pro でリポジトリ丸ごと 爆速・高精度なレビューを実現！

課題

従来のAIレビュー方式（PR差分に対するレビューやエージェントによるレビュー形式）では、必要なコンテキストがAIに正確かつ効率的に伝わらず、レビューの網羅性や精度に限界がありました。

レビューの質をさらに高め、セキュリティを強化する必要がありました。

解決策

Gemini 2.5 Proと独自ツールを組み合わせ、リポジトリ全体を対象として個々（脆弱性レビュー、パフォーマンスレビュー、設計レビュー）のレビューを行いました。

レビューはわずか5分程度で完了します。

成果

AIによる本方式では、複数ファイルに実装がまたがる「ロジックの脆弱性」も検出が可能です。SAST等のツールでは、ロジックの絡む脆弱性の検出は一部の簡単な場合を除き難しかったのですが、本方式で実現できました。

人間のレビューや、従来のAIレビューでは見逃しがちな、より深いレベルでのコード品質向上が可能に。

利用者の声

AIのレビューは驚くほど便利で、もはや人間だけのレビューには戻れないレベルに達していると感じます。コードの品質とセキュリティを担保する上で、なくてはならない存在です。

Dify + Claude Sonnet 4で誰でもデータ分析！

チャットUI上での対話で、SQL生成・LLMによる
自然言語処理を一気通貫で実行！

課題

事業のデータ利活用に際し、複雑なデータ構造やSQL文法への習熟が必要で、限られた人員しかデータを扱っていませんでした。

LLMのプロンプト作成の品質も人によってばらつきがありました。

解決策

データ基盤とDifyを連携させ、データ取得SQLの生成、LLMプロンプトの作成、実際のデータ分析までを自然言語による対話で実行可能にしました。

成果

本部内に解放したら、SQLを触ったことないメンバーが、自らデータ分析して施策検討サイクルを回すようになりました。

利用者の声

「こんな事を聞いてアナリストの時間を奪うのもな」と思っていた事も、LLM相手であれば自分が納得いくまでやり取りができて、満足度が高いです。

Devin活用でバイブコーディング！

QA担当がAIで開発！DevinでPR作成まで実現

課題

品質管理業務を担っていますが、普段はオペレーションツールの修正や機能追加の要望をエンジニアに依頼するしかありませんでした。軽微な修正でも、自分で直接対応できないことにもどかしさを感じていました。

解決策

AIソフトウェアエンジニアである「Devin」を活用し、ツールの修正を自ら行いました。自然言語で指示を出すだけで、Devinがコーディングを代行してくれます。

いわゆる「バイブコーディング」（Vibes-based coding：感覚や雰囲気コーディングすること）で、専門的な知識がなくても開発作業を進められました。

成果

これまでエンジニアに依頼していたツールの修正や機能追加を自分自身で完結させ、プルリクエスト（PR）を出すことができました。

職種の壁を越えて、自身でプロダクト改善のサイクルを回せるようになりました。

利用者の声

エンジニアに依頼するしかなかったツール改修を、自分自身の手で直接できるようになったのは大きな変化です。Devinのおかげで、アイデアをすぐに形にできるようになりました。

Deep Researchで諸外国の概況把握

人間による本調査前に、 AIによる事前調査を依頼して時間を節約！

課題

仕向地の言語や事情に精通していない状況で、法令や要請の不明瞭な点、および、事業者側で必要な対応を明らかにすることには時間を要する。

解決策

Deep Researchに、当該法令や要請の内容、および、具体的な事業者の対応状況を一覧化させる。

成果

インターネット上の実例を元に、広く浅く概況を把握する為の資料が得られる。

利用者の声

AI執筆の即席まとめ記事は、特化領域への即応性に優れ、調査の足掛かりとしては有用。本調査、および、法務部門や弁護士事務所との連携を通して方針決定をする為、ハルシネーションが存在する前提で運用可能。

非エンジニアのClaude Sonnet 4 とCursor活用 複雑な環境構築は不要！ コマンド一つでモック確認

課題

非エンジニアがモックをローカル環境で確認する際、環境構築などで何度も沼ってきました。指定されたコマンドをCLIから実行しなければならず、エラーが出るたびにエンジニアさんに解説いただく手間がありました。

専門知識の不足、セットアップの手間、トラブルシューティングの困難さ。

解決策

Cursor Agentから「立ち上げて」と言うだけで、Read Me（説明書）に従い自動で必要なコマンドを実行。環境構築やライブラリのインストールも同時に完了させてくれることで、双方手間がなくモックをローカルで動かせるようになった。

成果

非エンジニアでも簡単にモックの内容をチェックできるようになりました。

利用者の声

ユーザーフレンドリーな操作性で扱いやすいです。

新機能の品質チェックにGeminiを活用！ テストケース作成をAIで効率化！ レビューまで任せて品質向上

課題

新機能のテストケースを作成する際、リリース速度とプロダクト品質を保ったまま、品質チェック工程を効率化したいと思っていました。

複雑な仕様に対し、人の目で気づき難い点を指摘してくれるため
抜け漏れチェックに良いと感じました。

解決策

要件定義PRDをインプット情報として、Gemini Flashにテスト観点の作成を依頼。出力されたテスト観点を人間がファクトチェックした後、さらにGeminiにレビューさせ、不足している観点を指摘してもらいました。

テスト観点の作成やファクトチェック等、プロセスごとにAIを適切なタイミングで活用したりレビュー依頼を行うことで、テスト全体の精度と品質を高めつつ、テストケースの作成も行いました。

成果

テスト観点の抽出からケース作成、レビューまでの一連のプロセスを効率化し、品質の高いテストを担保できるようになりました。

共通作業を行うもの同士は、そのスキルを持った共通プロンプトを投げることで一定レベルの成果物が出力されるため、さらに対話することで精度を上げることができました。

利用者の声

「特に見て欲しいポイント」を伝えることでレビュー精度が向上し、欲しいレビュー結果に近づきました。
また、AIはタイミングや回数に気兼ねなくいつでもレビューの相方になってくれるのは心強かったです。

Cursor + Claude Sonnet 4活用でPythonコードの品質改善 Type HintやLinterなしのコードもAIで一括修正、 エラーゼロへ！

課題

Type Hint（型ヒント）やLinter（静的コード解析ツール）が適用されていないPythonのPoCコードベースをプロダクションに移行する際、エラー検知が複雑でした。

解決策

Cursorに既存のPythonコードベースを読み込ませ、「Ruff（静的解析・フォーマットツール）やmypy（型チェックツール）のエラーがゼロになるまで修正せよ」と指示しました。

成果

Cursorはコードを分析し、自動的に修正案を生成・適用してくれ、品質が大きく改善されました。

利用者の声

実際にRuffやmypyコマンドを実行しながら進めてくれるので、進捗が分かりやすく良かったです。どの程度の品質を求めるのかについては、予めRuffやmypyのルールを調整しておくことで対応できます。AIが保守改善しやすいコードベースを作っていくにあたって、コード品質の向上は一層重要性が高まっていると感じます。

Gemini活用で資料作成の手間を削減！

Confluenceの情報をAIが自動集約し、 報告資料を簡単に生成！

課題

グループの月次報告資料を作成するために、Confluence上の複数のページから活動情報を収集し、一つの資料にまとめる作業が非常に手間でした。

解決策

Confluenceの複数ページから情報を取得し、マークダウン形式に変換。そのテキストデータをGeminiにプロンプトと共に与え、1ページの報告資料としてまとめてもらいました。

成果

これまで手作業で行っていた情報収集と資料作成の手間が大幅に削減され、月次報告の準備が迅速に行えるようになりました。

利用者の声

散らばっていた情報をAIが一瞬で集約し、分かりやすいレポートにまとめてくれるので、報告業務の負担が劇的に軽くなりました。

Geminiでアンケート準備！

アンケート設問の動作確認準備をAIで効率化 テストに必要なペルソナパターンをAIで作成

課題

アンケートの設問に多くの分岐や条件が設定されている場合、動作テストのために複数の回答者パターンを作成する必要があり、手間と時間がかかっていました。

解決策

Geminiにアンケートの重要な分岐点を指示し、テストに必要な「チェック担当者 × デバイス × ペルソナ（年齢・性別など）」の組み合わせパターンを複数生成させました。

成果

担当者の感覚に頼りがちだったテストパターンをAIが網羅的に洗い出してくれるため、チェックの品質が向上し、作業時間も短縮されました。

利用者の声

複雑なアンケート条件下での動作テスト準備を、より短時間で精度高く、網羅性高くおこなえるようになり、業務効率はもちろん動作確認作業の信頼性向上にもつながりました。

Gemini + Clineで工数見積もり

1週間かかる作業がわずか2日に短縮！

課題

開発案件の工数見積もりは、技術調査やタスクの洗い出しに時間がかかり、担当者によって精度にばらつきが生じやすいという課題がありました。

解決策

既存のコードベースを必要に応じて加工しClineで解析し、実装方針を作成。その方針を基にGeminiでタスクを分解し、過去の見積もり実績データと照らし合わせて工数を見積もりました。

成果

これまで技術調査を含めて1週間ほどかかっていた見積もり作業が、わずか2日で完了。さらに、コードベースに基づいた詳細なタスク分解により、見積もりの精度も大幅に向上しました。

利用者の声

AIが実装方針の検討からタスク分解まで行ってくれるため、見積もり作業の属人化を防ぎ、誰でも精度の高い見積もりを迅速に行えるようになりました。

NotebookML活用！

Slackスタンプのリアクション集計を
秒速で完了！

課題

Slackのスタンプ（絵文字リアクション）で誰がどのスタンプを押したのか集計したいとき、スタンプにマウスカーソルを合わせてスタンプを押したメンバーを表示し、目視で集計する必要があり、地味に手間のかかる作業でした。

解決策

スタンプを押したメンバーを表示してスクリーンショットを撮影し、NotebookMLにソースとして与え、スタンプを押したメンバーの名前をリスト化させました。何人が押したのかも集計しました。

成果

これまでスタンプを押したメンバーを目視で確認し、手でリスト化していた作業が一瞬で完了。劇的に時短できました。

利用者の声

画像をAIに渡すだけで、テキストとして情報を整理してくれる手軽さに驚きました。アイデア次第で様々な場面に応用できそうです。

Atlassian Rovo活用！

AIがアジェンダを事前準備！
会議のアウトプットを最大化

課題

週次定例ミーティングの前に、Jiraのチケットを確認し、アジェンダをまとめる作業に時間がかかっていました。

解決策

Atlassian RovoとJira Automationを連携させ、AIエージェントを構築。毎週木曜日の朝9時に、直近で更新があったJiraチケットとその内容の要約、次のアクション提案を含むアジェンダ（Confluenceページ）を自動で作成するようにしました。

成果

会議の準備時間が不要になり、参加者全員が事前にアジェンダを把握できるため、会議の進行がスムーズになり、議論が活発になりました。

利用者の声

AIが会議のトピックを整理し、次のアクションまで提案してくれるので、会議の生産性が劇的に向上しました。もうAIのいない会議には戻れません。

Fireflyでプレゼン資料の挿絵作成 イメージに合う挿絵がない？ AIに作ってもらえば解決！

課題

社内プレゼン資料を作成する際、内容にぴったり合う挿絵や画像を見つけるのに時間がかかったり、商用利用可能な素材が限られていたりする課題がありました。

解決策

Adobe Fireflyを使い、プレゼンの内容に合わせた画像を生成。生成された画像をPhotoshopで微調整して、資料の挿絵として利用しました。

一度の生成で求める完璧な画像が出なくても、数回試行することでイメージに近く、利権的に商用利用も可能な画像を効率的に作成できます。

成果

資料のコンテンツに合った画像を短時間で作成できるようになり、資料全体のクオリティが向上しました。

利用者の声

これまで画像探しに費やしていた時間を、資料の内容をブラッシュアップするために使えるようになりました。

Gemini、VertexAI活用！

社内ミーティングの議事録を AIが再要約→Slack共有まで自動で

課題

Google Meetの自動議事録機能は便利ですが、求める精度の内容で要約されないことも多く、内容を正確に把握するためには結局、手直しや再要約が必要でした。

解決策

Meetの議事録と動画をVertexAIに渡し、Geminiで再要約。その内容をSlackに自動投稿するGASを開発し、毎日社内での朝会が終わる時間に自動実行されるようにしました。

成果

議事録の作成から要約、共有までの一連の流れが完全に自動化され、毎朝5分程度ではあるものの作業の削減につながりました！

利用者の声

これまで議事録の確認や整理にかけていた時間がゼロになり、朝会で決まった事項へのアクションにすぐ移れるようになりました。チームのスピード感が向上したと実感しています。

Geminiでスクリプトのレビュー&改善

既存スクリプトをAIでリファクタリング！ ステップ数を3割削減！

課題

子会社向けの請求書を自動発行する既存のスクリプトは処理手順が多く、一部で担当者の手作業が発生するなど、改善の余地がありました。

解決策

既存のスクリプトをGeminiに読み込ませてレビューと改善提案リライトを実施。より効率的な処理方法を提案させ、スクリプトを改善しました。

既存のスクリプトは手作りでしたが、ゼロからGeminiに作成させることも可能です。

成果

AIによるリファクタリングの結果、処理手順を3割削減することに成功。合わせて、これまで担当者が行っていた手作業も自動化され、業務効率が向上しました。

利用者の声

既存のコードをAIに見せるだけで、改善点を的確に指摘し、より洗練されたコードに書き換えてくれることに驚きました。コードの品質向上と効率化を同時に実現できました。

ChatGPTで言語の壁を突破！

海外文献の調査もAIでスピードアップ！

課題

海外の法令や当局の指針を調査する際、特に英語以外の言語の文献は一つ一つ翻訳する必要があるため、多大な時間と手間がかかっていました。

解決策

ChatGPTのDeepResearch機能を活用し、海外の文献調査を行いました。AIが自動で日本語の要約を作成し、さらには原典まで探し出してくれます。

成果

これまで翻訳に費やしていた時間が不要になり、海外の法令調査が大幅に効率化され、迅速な情報収集が可能になりました。

利用者の声

AIが言語の壁を取り払ってくれたおかげで、海外の重要な情報を迅速かつ正確に把握できるようになり、業務の質が向上しました。

Gemini + Copilotを活用！

資料作成が苦手でも大丈夫！ AIでスライド作成が爆速化

課題

スライドやパワーポイント資料の作成が苦手で、毎回多くの時間をかけても、満足のいくクオリティのものが作れないという悩みがありました。

解決策

まずGeminiと対話しながら資料のアウトライン（構成）を決定。その後、そのアウトラインに基づいて、Github Copilotに各スライドの内容をコーディング（デザイン・レイアウト生成）させました。

成果

これまで時間と労力をかけていたスライド作成が爆速で完了。AIが構成と内容のたたき台を作ってくれるため、資料のクオリティも安定して向上しました。

利用者の声

自分の苦手な部分をAIにサポートしてもらうことで、ストレスなく、かつスピーディーに質の高い資料を作成できるようになりました。まさに「得意を伸ばし、不得意を補う」AI活用です。

NotebookLM活用！
施策振り返りはAIとの対話で
アナリスト工数を削減！

課題	解決策	成果
施策の振り返りなどの分析業務をアナリストに依頼すると、工数がかかり、現場が求めるタイミングで迅速に分析結果を得られないことがありました。	SQL生成や分析の要件設計が可能なNotebookLMを作成し、現場の担当者が自ら分析業務を行える環境を整備しました。	アナリストの工数が大幅に削減されただけでなく、現場の社員がNotebookLMとの対話を通じて分析スキルを向上させるという副次的な効果も生まれています。

利用者の声	AIと対話しながら分析を進めることで、データへの理解が深まり、自分たちの手で施策の効果を可視化できるようになりました。分析業務がより身近なものになりました。
-------	--

Gem活用で告知文章作成

ライティングスキルの属人化から脱却！
誰でも高品質な文章に！

課題

文章の癖や丁寧さは人によって微妙に異なるもの。SNS等の告知の内容が作成者ごとに異なると、ブランドイメージの統一が難しくなり、文章作成や確認に時間がかかるという課題がありました。

解決策

GeminiのGemで、基本的な文章の「型」となるプロンプトを設定してチームで共有。誰が利用してもその「型」に沿って、SNSやアプリ内通知など、媒体に合わせた文章の素案を効率的に生成・チェックできるようにしました。

成果

文章作成の属人化が解消され、チーム全体で文章の品質が統一されました。
「Gem」を活用することで毎回プロンプトを考える手間も省かれ、一度の出力で媒体別でたたき台が完成するため、作業効率も大幅に向上しました。

利用者の声

Gemによる共通の「型」を使うことで文章の品質が担保され、一からプロンプトを考える手間が省け、誰でもスピーディーに質の高い文章を作成できるようになりました。チームの生産性が格段に上がったと実感しています。

Gemini + NotebookLM活用

Google Meetの文字起こしで
環境構築のReadmeを短時間で作成！

課題

開発環境の構築手順をドキュメント（Readme）化する際、やり方を知っている人が一人で網羅的かつ適切な粒度で手順をまとめるのには手間も時間もかかります。

解決策

Google Meetでの口頭説明を文字起こしし、そのデータをGeminiでドキュメント化しました。同時に、文字起こし全文をNotebookLMに読み込ませ、画面録画と共に共有することで、ドキュメントに記載しきれなかった詳細情報をいつでも質問できるようにしました。

成果

口頭での説明内容が、抜け漏れなく、かつ構造化された精度の高いドキュメントとして一発で完成。

ドキュメント作成にかかる時間が大幅に削減され、情報共有の質が向上しました。

利用者の声

NotebookLMにまず聞いてもらうことで、すでにドキュメントや文字起こし、映像に記録されている内容の質問が大幅に減りました。これにより、双方にとって気持ちの良いコミュニケーションで円滑に環境構築が進められました。

Geminiで資料整理を効率化

100ページの資料をAIで目次作成・ページ整理！

課題

100ページにも及ぶ大規模な資料を修正する際、ページの追加や構成の入れ替えを行う際に、全体の構成を把握し、目次を更新する作業が非常に煩雑でした。

解決策

Geminiに資料のPDFファイルを読み込ませ、まずは現状のページ構成に基づいた目次（ページリスト）を作成してもらい、その後その目次をベースにして、ページの入れ替え案を検討・作成しました。

成果

手作業では時間のかかる資料全体像の把握や可視化がAIによってすぐに完了。資料の構成案の検討、編集・整理作業が大幅に効率化されました。

利用者の声

資料の全体像をAIが整理してくれるので、構成の変更やページの入れ替えといったクリエイティブな作業に集中できるようになりました。

Gemini + Github Copilotでプロトタイプ開発 アイデアを1日で即座に形に！ AIが仕様概要を自動でアウトプット

課題

新しいサービスの企画案が生まれても、それを基にプロトタイプを開発するための仕様を作成するのに時間がかかり、アイデアの鮮度が落ちてしまうことがありました。

解決策

企画案を入力すると、AIエージェントやプロトタイプ開発に必要な仕様概要を自動でアウトプットするプロンプトを作成。「作りたい企画のプロダクト・サービス」のプロトタイプを業務の合間に1日でバイブコーディングにて開発しました。

成果

アイデアからプロトタイプ開発までのリードタイムがかなり短縮され、仮説検証サイクルも素早く実現できるようになりました。

プロトタイプ作成までエンジニアやデザイナーなしでAIの伴奏で完了できるのは大きい。

利用者の声

アイデアを思いついた熱量のまま、プロトタイプ開発ができるのは便利。開発手前のアイデアのブラッシュアップも可能で、仕様と実際に動くプロトタイプをAIで作成することで、その後のエンジニア、デザイナーとのすり合わせもより効率的。

Geminiで業務効率化

複雑なデータ整理もAIでミスなく時間短縮！

課題

人事異動に関するデータの資料をまとめるにあたり、データ整理の前に読み解くことに時間がかかり、結果として成果物の人為的ミスも多かった。

データを時系列に並べ替えたり、重複する情報をまとめたりする作業の難易度が高く、同じ対象であっても期間の重複や分割によるデータの煩雑さがネックだった。

解決策

Geminiにデータを読み込ませて、データの整理・整形を自動化。
同じ対象のグループ化／連続する期間の結合／開始日順での並び替え等を指示し、データを読み取る作業をなくした。

成果

手作業で行っていたデータ整理について、特にデータ内容を読み解く時間が大幅に削減され資料作成全体のスピードが向上。ミス削減にも繋がった。

利用者の声

これまで手作業で時間をかけていた細かいデータ整理をAIが一瞬で片付けてくれるので、本来注力すべき資料の中身の作成に集中できるようになった。

Geminiで議事録を分析&アジェンダを再整理！ 過去数ヶ月分の議事録から 議論の抜け漏れや課題を抽出！

課題

MTGで議論が白熱したり、タスクの確認にフォーカスしていると、議論観点に抜け漏れが発生することがあります。

解決策

Geminiに会議に関する情報（参加者属性や背景、議事録など）を提供。次回のMTGで議論すべきこと、今後検討すべきこと、見落としているリスクなどをまとめてもらいました。

Geminiにコンサルタント／優秀なPMとしてのペルソナをセット。

成果

議論点の見落としやプロジェクト全体の課題などを客観的な意見として洗い出しできたことで、会議のアジェンダをより良くすることができました。

利用者の声

人間が過去の議事録を遡って議論を整理すると数時間以上かかるものが、すぐに要点や課題点をまとめることができました！

NotebookLMで従業員を全力サポート！

24時間365日、いつでも気軽に質問できる セキュリティ相談AIチャット

課題

初歩的な疑問や判断に迷う時、「誰に」「何を」聞けばいいか分からない…。膨大な社内規程の中から、必要な情報を探し出すのが大変…。

解決策

膨大な社内規程やマニュアルを、AIが正しく理解できるよう“チューニング”し、それを学習した「セキュリティ相談AIチャット」を公開しました。

AIを「新人社員」「初心者」と見立て、人間向けに資料を分かりやすくする。

成果

従業員の"ちょっとした疑問"が即座に社内ルールを案内され、業務の滞留を防止。複雑な相談もAIが論点を整理してくれて、専門部署への問合せがスムーズになりました。

利用者の声

「まずAIに聞く習慣ができた」「初歩的な質問も気兼ねなくできるし、資料を探す手間がゼロになった！」と好評です。

Chat GPT活用で効率化！

AIで単純作業を賢く自動化！ 人間らしい柔軟な対応も実現

課題

ワークフロー申請のアプリで、申請されるタスクには、定型的な作業が多く含まれていましたが、イレギュラーな依頼にも対応する必要があるため、完全なシステム自動化は難しいと考えていました。

解決策

LLM（Chat GPT 4.1）を組み込んだ自動化ツールを開発。定型的な処理はAIに任せつつ、イレギュラーな依頼にも柔軟に対応できる仕組みを構築しました。

成果

これまで人間が行っていた作業の大部分をAIに任せることができ、業務効率が大幅に向上しました。

利用者の声

LLMの柔軟性を活用することで、これまで諦めていた業務の自動化が可能になりました。定型作業から解放され、より創造的な業務に集中できています。

Gemini の Deep Research 活用！

イベントのアンケート分析もAIで！

課題

定量データの集計だけなら関数を用いればできますが、大事なはその数値や傾向が何を示しているのかという部分です。しかし、それを言語化するには分析力とドメイン知識が必要になります。

解決策

アンケート結果のうち統計情報のみを利用して集計したスプレッドシートとイベント概要の情報をGeminiに読み込んでもらい、Deep Researchで分析を実施しました。

単純な計算を間違えることがあるので、集計までは人間側が実施しました。

成果

Geminiが分析観点の洗い出しと、分析結果のレポート作成までしてくれるため、非常に効率的でした。

生成されたものをチェックして修正すれば良いので、大変楽になりました。

利用者の声

LLMを活かしてイベントの課題や伸長ポイントを短時間で洗い出し、チームに対して次回に向けたアクション提案を即時に共有することができました。

GitHub Copilot活用

初めて触るコードも怖くない！ AIがリポジトリの案内人に！

課題

新しいプロジェクトに参加した際など、初めて触る大規模なコードリポジトリの全体像を把握し、目的の処理がどこに書かれているかを見つけ出すのに時間がかかっていました。

解決策

GitHub Copilotにリポジトリの概要を説明させたり、「〇〇の処理はどこ？」といった質問を投げかけたりすることで、コードの理解を深めました。

AIが相手なら、時間を気にせず質問することが可能。

成果

これまで手探りでコードを読み進めていたのに比べ、AIのガイドによってリポジトリの構造や主要な処理を短時間でキャッチアップできるようになりました。

利用者の声

スムーズにコードの理解が進みます。新しい技術やプロダクトへのキャッチアップが格段に楽になりました。

Geminiで会議の在り方をアップデート！

進捗報告だけの定例はもう終わり。 AIアシスタントがチームの創造性を解放！

課題

毎週、こんな「時間泥棒」で地味に悩んでいました。①進捗報告に時間がかかり、議論の時間が足りない②会議直前のアジェンダ作成③アジェンダ、議事録、タスク管理ツールへのコピペ地獄、など。

解決策

面倒な定型業務をAIに任せて人間とAIの役割を明確に分けることで、会議の生産性を最大化します。
(※各種業務ツールと最新のAI技術をAPI連携させることで実現)

人間がすべきこと：未来のための議論、新アイデアの創出、重要な意思決定。人間にしかできない最も付加価値の高い活動に集中。
AIに任せること：情報収集、アジェンダ自動生成、リマインド、議事録の転記など、面倒な定型業務の代行。

成果

会議は「報告の場」から「創造の場」へ。AIアシスタントが、会議の準備から実行、事後処理までをシームレスに支援。人間は本質的な業務に集中し、プロジェクトが加速する状態を実現した。

新しい会議サイクルが、人間を単純作業から解放し、ビジネスを前進させるための「思考」と「対話」の時間を創出した。

利用者の声

毎週の定例準備にかけていた数時間が、ほぼゼロになりました。本来集中すべき戦略的な議論に時間を使えるようになり、プロジェクトの進行スピードが格段に上がり、新たな施策を考える余裕も生まれました。

GeminiのGemで校正チェック！

50枚超のスライドの誤字脱字・固有名詞 チェックを数分で！

課題

50枚以上のスライド資料の誤字脱字や専門用語のチェックを、複数人のチームメンバーで目視確認しており、非常に時間と手間がかかっていました。

それでも人間の目では、見落としが発生していました。

解決策

これまで人間が行っていたチェック観点をGeminiに伝え、スライド校正用のGemを作成。誤字脱字だけでなく、「固有名詞はWebで検索して、不一致があれば報告する」といった指示も加えることで、ファクトチェックも可能にしました。

Gemのプロンプト自体もGeminiに作ってもらうことで、作成時間を短縮し出力形式の調整も簡単に行えました。

成果

人間が数人がかりで数時間かけていたチェック作業が、Gemを使って数分で完了するように。毎回同じ品質でチェックできるため、資料のクオリティが安定し、チームの負担も軽減されました。

利用者の声

Gemのおかげで、毎回プロンプトを書かなくても、ドライブからスライドを選ぶだけで統一されたアウトプットが得られ、チームでも容易に共有可能になり助かりました。

Gemini & Figma/draw.io活用！

手書きアイデアが即データ化！ 雑なメモを編集可能な形式にAIが変換

課題

アイデア出しの段階でノートやホワイトボードに手書きしたワイヤーフレームやフロー図を、後からFigmaなどのツールで清書し直すのは二度手間で、時間がかかっていました。

解決策

手書きしたワイヤーフレームや遷移図のメモを写真に撮り、その画像をGeminiに渡すだけで、Figmaやdraw.ioなどのツールで編集可能なデータ形式に変換してくれるプロンプトを作成しました。

成果

手書きの段階で終わらせず、そのままPC上で継続して編集できるようになったため、アイデアを形にするまでのスピードが上がり、ツールで一から作り直す手間も完全になりました。

思いつきから形にするまでのスピードも向上！

利用者の声

とりあえず手書きで出した雑なアイデアを、そのままデジタルデータとして使えるのは大変便利です。思考を止めずに、シームレスに資料化することが可能です。

Gemini CLI活用！

AIアシスタントと対話してタスク管理！ GitHub Issueの確認を効率化

課題

GitHubのissueでタスク管理をしていると、issueの数が増えるにつれて、更新が漏れているものや、今日やるべきタスクを把握するのが大変になっていました。

とくに、更新漏れのリマインドはマネージャー、メンバー双方の負担になっていました。

解決策

Gemini CLI（コマンドラインツール）に、GitHubを操作できる「gh」コマンドを実行させました。これにより、「更新が漏れているissueは？」や「今日やるタスクを3つ教えて」といった自然言語での問いかけでタスク状況を確認できるようにしました。

また、CLIであることによって、他のコマンドとの組み合わせや定時実行による自動化が行いやすいです。

成果

毎日のタスク確認や、対応が漏れているissueのチェックが対話形式で簡単に行えるようになり、タスク管理の効率が大幅に向上しました。

目視による確認ではどうしても見落としがありました、それが減ったのも良かった点です。

利用者の声

わざわざGitHubの画面を開かなくても、コマンドラインからAIに話しかけるだけでタスク状況を教えてくれるので、非常にスムーズに作業を進められます。

出張準備でGemini & NotebookLM活用！

海外文献も読み解くAIと作る、最強の視察プラン！

課題

先進事例を学ぶための視察出張に行く際、どこを視察すべきか、何を見るべきかのリサーチやプランニングに多くの時間がかかっていました。特に海外の情報収集は大変でした。

解決策

Geminiと壁打ちしながら、視察地域の概要の理解、視察スポットの候補の洗い出しを行いました。NotebookLMに、スポット情報に加えて、国内外の文献も読み込ませ、自分の仕事で参考にできるポイントなどを網羅的にまとめてもらいました。移動中に聞ける音声解説も作成しました。

成果

事前に深い情報整理ができたことで、現地での視察が非常にスムーズになり、帰国後の報告書の作成も捗りました。同行するパートナー企業にも質の高い事前資料を共有でき、自社のプレゼンス向上にも繋がりました。

AIのおかげで、出発前から視察の解像度が非常に高まりました。

利用者の声

現地ではポイントを絞って効率的に見て回ることができ、移動中にも音声で予習できるので大変便利な活用方法でした。

Geminiがパーソナルトレーナーに！

1週間のFigma集中学習で業務の幅が広がった話

課題

AI生成画像は、見栄えが画一的で結局微調整が必要となり、そのままでは使用できないものが多いという課題がありました。簡単な画像修正や作成だけでも自分でできるようになり、実際に使用可能な画像が作りたいと考え、デザインツール（Figma）を学習して使いたいと考えました。

これまではデザインに関する作業はコメントやテキスト修正程度しかできず、デザイナーへの依頼が必要でした。

解決策

Geminiをパーソナルトレーナーに見立て、「非デザイナーが実務で使えるようになるための1週間のFigma集中学習スケジュール」を作成してもらい、そのスケジュールに沿って学習を進めました。

成果

学習の結果、これまでデザイナーに依頼していた既存LPのKV差し替えやボタンの新規作成などを自分で対応できるようになりました。これにより、人的リソースが限られ、従来であれば諦めざるを得なかった画像制作を企画が一部対応できるようになりました。

利用者の声

Geminiが作った学習プランのおかげで、体系的にFigmaを学ぶことができ、今では自分でデザインの微調整ができるようになりました。軽微なデザイン修正であれば自分で完結できるので、企画の立案から実行までのスピード感が上がりました。AIで生成された画像ではなく、実際にリリース可能な画像を自ら作れるようになり、自身のスキルアップにも繋がりました。

Gemini活用！

面倒な新旧対照表の作成を自動化！ 新旧PDF文書を比較し一発生成

課題

社内規程を改定する際、変更箇所を一つ一つ拾い出して新旧対照表を作成する作業が手間で、時間がかかる上にミスも発生しがちでした。

変更箇所が十数か所に及ぶため、手作業での一覧化・チェックは非常に大変でした。

解決策

変更前後のPDF文書をそのまま Gemini に読み込ませ、「変更箇所を抽出し新旧対照表の形式に従いMarkdown形式の表として出力して」と指示しました。

変更（削除/新設、繰り下げ等）をどう表示したいか Gemini とやりとりし、新旧対照表作成プロトコルとしてまとめてもらうと次回から便利です。

成果

これまで時間をかけていた一覧化作業が一瞬で完了するようになり、大幅な効率化とミスの軽減を実現できました。

利用者の声

PDF ファイルをそのまま読み込ませるだけで、正確な新旧対照表が一瞬で出来上がり、大変効率的でした。

Gemini & ChatGPT活用！

熟練者も悩む分析結果の解釈をAIがサポート！ クラスターのネーミングを自動提案

課題

クラスター分析や因子分析を行った後、その結果が何を意味するのかを解釈し、各グループに分かりやすい名前（ネーミング）を付ける作業は、熟練の分析者でも時間がかかり、頭を悩ませる工程でした。

解決策

分析結果の数表（クラスター分析のクロス集計表や、因子分析の因子負荷量）をそのまま生成AIに読み込ませ、各グループの特徴の解釈とネーミングを依頼しました。

成果

AIが提案する解釈とネーミングは、たたき台として非常に質が高く、ほぼそのまま使えるレベルでした。これにより、分析の最終工程であるレポート作成の工数が削減されただけでなく、ネーミングの質も向上しました。

利用者の声

これまでウンウン唸りながら考えていたクラスターのネーミングを、AIが的確に提案してくれるので、分析作業が本当に楽になりました。クオリティも上がって一石二鳥です。

Gemini & Deep Research活用！

トレンド分析を自動化！GASで頻出ワード抽出から調査プロンプト生成まで一気通貫

課題

世の中のトレンドを把握するためにWeb記事を収集・分析し、そこから新たなアイデアの種を見つける作業は、手動では膨大な時間がかかります。

解決策

Google Apps Script（GAS）を使い、一連の作業を自動化しました。具体的には、
①Web記事を収集②記事内での頻出ワードをリストアップ③そのワードを組み合わせGeminiのDeep Researchでさらに深掘り調査するためのプロンプトを自動生成、という流れです。

成果

トレンドの共通要因を効率的に分析し、再現性のあるアイデアの種を考え出すプロセスを仕組み化できました。これにより、リサーチの質とスピードが大幅に向上しました。

利用者の声

トレンドリサーチが自動化できたことで、より客観的で質の高いアイデア創出につながっています。

ChatGPTを活用！ GAS未経験者が、 工数管理のツールをAIと作成！

課題

毎月どの業務カテゴリにどれくらいの時間をかけているか把握したかったが、手作業での集計は大変でした。エンジニアではないため、これまでは自分でツールを作ることもできませんでした。

Googleカレンダーの予定をもとに、自動で集計する仕組みが欲しかったのです。

解決策

ChatGPTに助けをもらいながら、Googleカレンダーの予定からタイトル、日付、時間、カテゴリを抽出するGASを作成。

エラーが発生した際は、そのエラー画面のスクリーンショットをChatGPTに送り、修正方法を教えてもらいながら開発を進めました。

成果

開始日と終了日を指定してボタンを押すだけで、期間中の予定がカテゴリ別に集計され、スプレッドシートで業務時間の可視化ができるツールを作成しました。

利用者の声

非エンジニアで、GASを書いたことがなくても、ChatGPTにエラーを見せて相談すれば修正できるので、諦めずにツールを完成させることができました！

Gemini+GASで自動化！

メールの重要度仕分けとサマリ通知で工数削減

課題

毎日大量に届くメールの確認に工数がかかっており、メールの見落としリスクもあった。

解決策

GeminiとGAS（Google Apps Script）を使い、受信メールを重要度別に仕分けし、サマリを通知するスクリプトを作成した。

▼Geminiへの指示

- ・未読メールのサマリーを朝夕に定期送信したい
- ・メールに重要度を付け、仕分けされて届くように
 - 重要度はABCの3段階
 - ABは「特定の差出人/件名」などを組み合わせ設定、Cそれ以外
- ・といった具合で具体的に指示

成果

ラベルに関係なく朝夕にメール全体をざっと確認できるようになり、メールの見落としリスクと確認工数が大幅に削減された。

利用者の声

メール見落としのリスクと確認工数がかなり削減しました。

Cursorで配色検証！

ブランドのトンマナに沿ったカラーコードを
AIでパターン出し！

課題

ブランドのトーン&マナーに沿った配色（例：黄色と青の組み合わせ）を考える際、多くのパターンを試作し比較検証するのに手間がかかっていました。

解決策

Cursorを使用し、指定した条件（ブランドのトンマナ、使用色）でカラーコードの組み合わせを複数パターン生成させました。

成果

AIが生成した多くの配色パターンを迅速に比較検証でき、デザインの意思決定が効率化されました。

利用者の声

AIにパターン出しを任せることで、クリエイティブな比較検証作業に集中できるようになりました。

GoogleMeet/Geminiでドキュメントレビュー効率UP！ AIによるミーティング議事録活用で レビューの質・速度を3倍に改善！

課題

資料のレビュー依頼があった際、コメント機能を使うとコンテキストが伝わらず、結局何度もやり取りが発生し時間がかかることがあった。

30分かけてレビューしても、再レビュー、再々レビューとなり結局何時間もかかることも。

解決策

Google Meetの自動議事録機能（AI議事録）を活用し、30分間直接会話してコンテキストを踏まえたレビューを口頭で行うことで議事録がデータとして残り、活用も可能に。

レビューは議事録と資料をGeminiに読み込ませ、改善点をさらに深掘りすることができる。

成果

同じ30分でも、資料にコメントするだけの時間・30分を「1」とした時、レビュー結果＋議事録＋Geminiによる議事録添削という「3倍」のアウトプットが得られる。

利用者の声

非同期な作業が増えている昨今、AIが登場したことで人間との時間を逆に如何に濃密にできるのかが大事になってきています。結果的に、この3倍のアウトプットがよりクリエイティブなアウトカムにつながることを体感しています。

Claude Codeで振り返りを効率化！

JiraチケットをAIが自動集計！ 振り返り資料の雛形をサクッと作成

課題

半期ごとの個人振り返りは重要な作業ですが、初期の記憶が曖昧だったり、フォーマルな文章での記載を負担に感じて後回しにしがちでした。

解決策

Claude Code (Sonnet 4) と Atlassian MCPを活用して半期中に対応したJiraチケットをまとめ、それを元に振り返り資料のドラフトを作成しました。

成果

ドラフトがあることによって、振り返り資料の作成が大幅に効率化されました。

副次的な効果として、AIに読み込ませるために日々のドキュメンテーションを頑張ろうというモチベーションにも繋がりました。

利用者の声

ドラフトがあることで振り返りに着手しやすくなり、より本質的な内容に向き合う時間を増やせました。

ChatGPTとGeminiで定点観測！

プラットフォーム規約や海外法令の変更を AIが自動通知！

課題

アプリリリースの際に遵守すべき業界向けのレギュレーションや法令対応は、不定期に更新されることも多く、自力で情報を追うことは大きな負担でした。

特に海外では、近年個人情報保護や子供向けへの法令対応が日々進んでおり、確認内容も多様です。

解決策

ChatGPTやGeminiに定期タスク（週1回など）を実行させ、特定のWebサイト（レギュレーションページなど）の変更や更新情報を監視させました。

確認頻度・範囲・優先度なども調整ができ、情報の一時整理が可能です。情報収集や整理にかかる時間が従来より90%程軽減されました。

成果

変更時にAIから通知が来る仕組みにし、情報を探す・整理する手間が大幅に削減され、海外法令の動向も容易にキャッチアップできます。

情報ソースも引用でわかり、法令の施行時期も参考にできることで、素早く一時判断を行えます。

利用者の声

重要な規約変更を見落とすリスクを減らしつつ、調査にかかる時間を大幅に削減できました。

GeminiとNotebookLMの合わせ技！

「音声解説」→「レポート熟読」で トピック理解を高速化！

課題

新しいトピックや知見を深めたい分野について、情報収集し、内容を深く理解するまでに時間がかかっていました。

まだ論文で発表されただけで、一般向けの解説がない場合などは特に大変です。

解決策

- ①Gemini Deep Researchで、知りたいトピックを日本語と英語の両方で調査し、レポートをエクスポート。
- ②NotebookLMに①のレポート（日英両方）をソースとして読み込ませる。
- ③NotebookLMで「音声解説」を生成。

まず音声解説を聞き、その後でDeep Researchのレポートを読む、という順番でインプットしました。

成果

音声で概要を掴んでから詳細なレポートを読むことで、トピックに対する理解がより早く、深くなりました。不明点はNotebookLMで追加質問も可能です。

特定のトピックの専門家に家庭教師をやってもらっているような感覚で学べます。

利用者の声

日英両方でリサーチすること、音声とテキストを組み合わせることで、インプットの質と速度が劇的に上がりました。

Geminiをデザイナーが活用！

アイコンパターンの量産生成で、 デザインプロセスを革新！

課題

アプリ内アイコンのデザインにおいて、線の太さや角度など、微細な違いのパターンを多数試作するには、多くの時間と労力が必要でした。

解決策

Geminiに、SVG形式でアイコンの組み合わせパターンを大量に生成するプログラムを作成させ、実行しました。

どこを変数にすればいいか、などはツールを作りながら調整しました。

成果

人間では到底作成できないほどの膨大なデザインパターンが生成され、その中から最適なものを選ぶという、新しいデザインプロセスが実現しました。

10000パターンぐらい生成して大きな方向性（どこを固定して、どこを調整すればよくなりそうか）を決めて、また微調整、を繰り返しました。

利用者の声

AIによって試行錯誤の量と質が劇的に向上し、これまでにないデザインプロセスを体験できました。

DevinとSlack連携で業務効率化！

エンジニア不在でもBizチームがSlackから 直接PR作成可能に！

課題

アプリからのリダイレクト先URLの変更（イベントLPの差し替えなど）は、都度エンジニアが対応する必要があり、工数がかかっていました。

解決策

DevinをSlackと連携させ、Bizチームが利用できるようにプロンプトを整備しました。

成果

Bizチームのメンバーが、SlackからDevinを呼び出し、遷移先を指定するだけで、自動的にプルリクエスト（PR）が作成されるようになりました。

これまでエンジニアが対応していた定型業務をBizチームで完結できるようになりました。

利用者の声

イベント対応などが迅速に行えるようになり、エンジニア・ビジネス双方の業務効率が大幅に改善しました。

Gemini Gemで「対話できるペルソナ」生成！ 調査データをコンテキストとして与えて、 リアルな「人工人格」をマーケティングに活用！

課題

これまでは「ペルソナシート」を作成していましたが、情報量が限られていることもあり、人格の表現に限界がありました。情報量を増やすと逆に理解しづらく、活用されない問題もありました。

出来上がったペルソナを現場のメンバーにいかに関心事として活用してもらうかは課題の1つでした。

解決策

調査データ（アンケートやインタビューをもとにしたリサーチ）をLLM（Gemini）にコンテキストとして与え、「対話可能な人工人格」としてのペルソナを生成しました。

GeminiのGem機能で実装し、社内で共有しやすくしました。

成果

ユーザーに直接相談する感覚でペルソナを活用できるようになり、実際に得たい情報やアイデアが的確に得られるようになりました。

AIが処理しやすい形式への変換が不要になり、言語やテーブル・カラムの背景情報はプロンプトで補完することで、より高精度なSQL生成が可能になります。

利用者の声

ペルソナをゼロからAIに作らせるのではなく、実際の調査データに基づかせたのが肝です。これにより、リアルなインサイトを親近感を持って身近に活用できるようになりました。

GeminiでCSS修正が爆速化！

既存CSSとスクショ画像で、 AIがデザイン修正コードを即生成！

課題

WebデザインのCSSを修正する際、求めるデザインにする為の正確なコード変更箇所を見つけ、記述するのに時間がかかっていました。特に自分が作成していないCSSは相応のコストがかかります。

CSSの深い知識がなくても、AIにコードの内容を把握・説明してもらうことで全体像の把握にかかる時間が短縮できます

解決策

Geminiに、①既存のCSSシートを読み込ませ、②変更したいデザインのスクリーンショットを貼り付け、③デザインの方向性や変更内容をプロンプトで指示しました。

レイアウトイメージを正確に伝えとパラメータ等の細かい画面比率についても、AIが調整して出力してくれるため、調整にかかる時間も短縮可能。

成果

Geminiが指示内容と画像を理解し、求めているデザインに即したCSSの修正コードを具体的に生成してくれるため、修正作業が大幅に効率化されました。

CSSのスキルセットが不足していても、AIの指示に応じて対応を進めることで、理想のデザインを実装することが容易にできます

利用者の声

既存のコードとビジュアル（スクショ）を両方インプットできるので、AIとの認識齟齬が減り、精度の高いコード修正が可能になりました。

Geminiで週報作成を自動化！

スプレッドシートのTODOから完了タスクを抽出し、報告資料を時短作成！

課題	解決策	成果
週報を作成する際、スプレッドシートのTODOリストから完了したタスクを抽出し、報告資料の形式にまとめる作業に時間がかかっていました。	<div>Geminiを使用し、スプレッドシート上のTODOリストから指定期間内にステータスが「done」になったタスクを自動でピックアップさせました。</div> <div>要点整理や見出し作成などのテンプレートを活用し、報告形式に出力させました。</div>	報告資料のたたき台作成時間が大幅に短縮され、業務効率が向上しました。

利用者の声	面倒なタスクの書き出しや整理をAIに任せることで、報告業務の負担が大きく減りました。
-------	--

Cursorで便利にドキュメント管理！

AI活用で文章作成・修正が快適に

課題

日常的な文書作成や修正において、より丁寧な表現を検討したり、環境でもスムーズに作業したりしたいというニーズがありました。

解決策

エンジニア向けと思われがちなCursorを、Googleドキュメントのように日常の文書作成（.mdファイル）に活用しています。

AIに文章の修正を依頼し、より丁寧な表現にブラッシュアップしてもらっています。

成果

文章の推敲をAIサポートで効率化。普段コーディングをしない職種（デザイナー）でも、使いやすいツールとして定着しました！

利用者の声

Cursorが文章修正を丁寧に行ってくれるので助かっています。
普段コーディングをしない職種の人でも、「ドキュメントツール」としてぜひ試してみたいです！

Gemini/Canvasで文章校正！

インタビュー議事録から外部公開文書作成

課題

インタビューの議事録を基に、表現、構成、文字数などを適正にした外部公開用の文書を作成する必要があった。

Gemに文章校正ルールを登録することで、Google Meetの自動生成議事録から瞬時にドラフト作成。

解決策

Gemでつくったドラフトをベースに、Canvasで強弱の調整や表現の変更、文字数調整をし、より伝えたい内容にブラッシュアップした。

議事録を添付して、発言の事実確認（ファクトチェック）もできる。

成果

Geminiによるドラフト作成とCanvasでの柔軟な編集機能により、制約とルールのある外部公開文書作成が効率化された。

利用者の声

ルールに従ったドラフトを瞬時に作成、「もっとこうして」「そんな発言あった？」にも即時対応、文字数調整はボタンを押すだけ。もうGeminiなしには戻れません！

AIで最新ライブラリをキャッチアップ！ コーディングエージェントとAI活用で 変化の速い開発環境に適応！

課題

LangChainやLangGraphなど、変化の速い最新ライブラリの情報を素早くキャッチアップし、開発に組み込むことが困難でした。

解決策

ライブラリの動作を理解するタイミングではDeepWikiで対話的に実装方法を確認し、コーディング時はCursor/Claude Codeなどに最新ドキュメントを確認させるようにContext7 MCPで参照させるようにしました。

成果

最新ライブラリの情報を迅速にキャッチアップし、開発への組み込みを素早く行えるようになりました。

利用者の声

AIのサポートのおかげで、最新の技術情報にも効率よく対応できるようになり、開発の幅が広がりました。

Gemini Canvasでスライド作成！ 会社テンプレ準拠の資料を コーディング不要で生成！

課題

DeNAの社内標準テンプレートに沿ったスライド資料を作成するには、構成を考え、デザインを整える必要があり、時間がかかっていました。

解決策

GeminiのCanvas機能（スライド出力機能）を活用。Geminiと対話しながら資料のアウトラインを決めたり、あらかじめスプレッドシートにまとめたアウトラインを読み込ませたりすることで、会社のテンプレートに沿ったスライドを自動生成させました。

成果

コーディング作業やデザイン調整の手間が一切不要になり、スライド資料のたたき台が短時間で完成するようになりました。資料作成の初速が劇的に向上しました。

利用者の声

Canvas機能のおかげで、Geminiと壁打ちしているうちに資料の構成と思考が整理され、そのままスライドとしてアウトプットされる体験は革命的です。

NotebookLMで勉強会！ 発表者の準備負荷ゼロ！ AI音声概要で継続的な学習を実現

課題

社内での定期的な勉強会は有益ですが、発表者側の資料準備や登壇準備の負荷が大きく、継続的に開催するのが難しいという課題がありました。

解決策

NotebookLMを活用し、勉強会のテーマに関連する資料や情報をソースとして登録。NotebookLMが生成する「音声概要」をそのまま勉強会のコンテンツとして使用しました。

音声概要は、メンバー全員の内容キャッチアップのため、勉強会の冒頭で再生します。残りの時間を、NotebookLMのチャットやメンバーとの議論に利用し、ソース確認や内容の理解・発展に努めます。

成果

発表者が事前に資料を作成したり、リハーサルをしたりする必要がなくなり、準備負荷がほぼゼロになっただけでなく、議論の時間を取ることのできることで、アクティブな勉強会を開催することができました。

利用者の声

AIが生成した音声概要を聞くだけでインプットができるので、開催のハードルが劇的に下がりました。忙しい中でも手軽に知識をアップデートできる場ができて助かっています。

Figma Makeでプロトタイプ開発！

リッチなインタラク션을爆速で試作！

課題

従来のFigmaのプロトタイプ機能では、リッチで高度なインタラク션（操作感）を表現しきれず、エンジニアと最終的な実装イメージを共有するのが難しい場合がありました。

これまではその場合、動画などでイメージを作成し、共有していましたが、結局実装観点で難しい、などの手戻りが発生していました。

解決策

Figma Makeを活用し、高度なインタラク션을含むプロトタイプを作成しました。

成果

これまで作れなかったリッチなインタラク션을スピーディに試すことが可能になりました。また、アウトプットがコードベースであるため、エンジニアとの議論が非常にスムーズになりました。

利用者の声

コードベースでアウトプットが出るので、エンジニアとの共通言語ができ、デザインの意図を正確に伝えられるようになりました。また、そのままFigmaでデザインとしても編集できるため、グラフィック面での試行錯誤のスピードも格段に上がりました。

GeminiをAIパーソナルトレーナーに！ 社員の健康管理もAIがサポート

課題

筋トレや減量を長年自己流で行っていたが、専門的な知識がなく、モチベーション維持も難しかった。リアルなパーソナルトレーナーに頼むほどではないが、細かい疑問を気軽に相談できる相手が欲しかった。

解決策

GeminiのGem機能を活用。自身の身長、体重、年齢、トレーニング歴、目標などを詳細に設定し、自分専用の「パーソナルトレーナー人格」を作成。トレーニングメニュー、食事メニュー（PFCバランス）、モチベーション管理、さらには写真での体脂肪率判定までAIに任せました。

成果

AIトレーナーのサポートを受け、5ヶ月で体重8kg減、体脂肪率9%減という具体的な成果を達成しました。無事コンテストコンディションまで到達しました。

利用者の声

リアルなトレーナーには聞きにくいような些細な疑問や、減量中のメンタルケアまでAIがサポートしてくれるので、減量期の解像度が格段に上がりました。

Gemini CLIの仕組みを可視化！

PacketProxyでAIエージェントの「中身」を 計測・理解し活用

課題

AIエージェント（Gemini CLIなど）は便利ですが、内部でどのような情報（コンテキスト）がやり取りされているかブラックボックスな部分が多く、「なんとなく」で使われがちでした。

解決策

当社開発のOSS「PacketProxy」を使用し、Gemini CLIの通信内容を解析。AIエージェントがどのようにコンテキストを扱っているかを「計測」し、その仕組みを解明しました。

PacketProxy は、業務の脆弱性診断やソフトウェアテストに用いられる、OSSのローカルプロキシです。通信を PacketProxy に通すことで、その内容を確認することができます。

成果

AIエージェントの動作原理を感覚ではなく計測に基づいて理解することができました。この知見をDeNA ENGINEERINGの記事として寄稿し、AIエージェントをより信頼してビジネス活用するための具体的な方法を解説しました。

利用者の声

「なんとなく」で使っていたAIエージェントの仕組みを、PacketProxyで可視化・計測することで、自信を持ってビジネスに組み込めるようになりました。

Geminiを使って5分でDiffツール作成！ スプレッドシート仕様書の変更点を自動で検出！

課題

仕様書をスプレッドシートで管理していると、過去のバージョンと現在のバージョンで「前とどう変わった？」を目視で追うこととなり、ミスも増え、工数がかかっていました。

仕様書の反映漏れで障害も実際に発生していました。。

解決策

Geminiを活用して、Vive Codingのみで、スプレッドシートを比較して変更点（差分）を抽出する「Diffツール」を作成しました。

本来だと1～2時間程度はかかっていそうなGAS作成、思いつきから作成までわずか5分！

成果

- ✓ 変更箇所が一目でわかる
 - ✓ レビュー効率が劇的UP
 - ✓ 変更漏れ・確認ミスも防止
- 上記を実現できました。

Diffツールを作ったことでヒヤリ・ハットが減り、障害発生も防止できています。

利用者の声

スプレッドシートの変更点を目で追うのは限界がありましたが、AIにDiffツールを作ってもらったことで、変更箇所の確認がミスなく高速に行えるようになりました。

Geminiでプロンプト改善！

AIに「プロンプトレビュー用プロンプト」を作 らせて精度向上！

課題

生成AIの回答の質はプロンプト（指示文）に大きく左右されますが、常に最適なプロンプトを作成するのは難しいという課題がありました。

解決策

Geminiに対し、「（自分が作成した）プロンプトの品質をレビューし、改善案を提示してくれる」ような、メタ的なプロンプトを作成しました。さらにその「レビュー用プロンプト」自体もGeminiにブラッシュアップさせ、Gem（カスタムAI）として登録しました。

成果

プロンプトの品質をAI自身にチェックさせる仕組みができたことで、プロンプト品質の向上だけでなく、改善点もアウトプットすることで自分の能力向上にもつながっています。

単なるブラッシュアップではなく、Good/Moreを教えもらうことで「自分のプロンプトエンジニアリング能力」の向上にもつながる点がポイント。

利用者の声

AIにプロンプトをレビューさせるという「AIによるAI改善」が簡単にできるようになりました。プロンプトの質が上がることで、AIのポテンシャルを最大限に引き出せます。

Dify分析基盤で定性分析

LLMで効率的に集計・分析が可能に！

課題

サービス利用者の反応を把握する際、SNSだけでは発信力のある人の意見に偏りがちで、サービス内の多様なユーザーの声を網羅的に把握するのが困難でした。

解決策

分析部と基盤チームによってDifyベースの分析基盤を作成し、サービス内の情報をLLM（Gemini / Claude）に取り込み、定性的な反応の集計を自動集計できるようにしました。

成果

これまで把握しきれなかった多様な情報を、低工数で迅速に把握できるようになり、施策の評価と改善サイクルが格段にアップしました。

利用者の声

SNSだけでは見えなかったユーザーのリアルな反応を、LLMが効率的に集計・分析してくれるので、施策の手応えを多角的に掴めるようになりました。

GeminiでUnity作業自動化！

FBXインポートの面倒なフローを AIがスクリプト化！

課題

UnityでFBXファイル（3Dモデル）をインポートする際、手作業でフォルダに振り分け、マテリアルを割り当て、プレハブ化するという一連の定型作業が発生し、手間と時間がかかっていました。

解決策

Geminiに対し、自動化したい一連のフロー（フォルダ振り分け、マテリアル付与、プレハブ化）を箇条書きで指示。AIと壁打ちしながらスクリプトを作成しました。Unityでのスクリプト実装方法自体もAIに教えてもらいました。

成果

これまで手作業で行っていた面倒なインポート作業を自動化するスクリプトが完成し、作業効率が大幅に向上しました。

利用者の声

コーディングの知識が十分でなくても、やりたいことを箇条書きにするだけでAIが壁打ち相手になってくれ、Unityでの実装方法までサポートしてくれました。

AI x Slack での自社機能開発

問合せ対応の自動化で生産性爆上がり！

課題

従来のWebチケットシステムは問合せ対応に時間がかかり（数日から数週間）、担当者の工数が増加していた。導入済みのAIチャットボットもあまり使われていなかった。

解決策

普段使うSlackを問合せ窓口とし、「まずAI（Findout）に聞いて、分からなかったら人が対応する」というAIネイティブな流れをシームレスに構築した。

AIが100%完璧ではないことを前提とした設計で、人による対応へのスムーズな連携を実現した。

成果

AIによる即時回答（数秒）で多くの問合せがその場で完結。人間の対応が必要なチケット件数が20%減少し、問合せ解決時間も40%短縮された。

利用者の声

利用者からは体験が向上したという声が多数あったとともに、AIが最初に回答することによって対応者側の基本的な質問も減りました。その結果、難易度が高い質問に集中できるようになり、より専門性を活かした対応に注力できています。

Geminiで研修用動画作成！

サウンドの「事故例」をAI動画で再現し、 新人の理解度アップ！

課題

新卒研修で、ゲーム開発における「サウンドと映像のズレ」という事故例を伝えなかったが、実際のプロジェクト動画は機密情報のため使用できず、口頭説明のみで分かりにくいという問題がありました。

解決策

Geminiの画像生成機能で説明用（静止画）を作成し、さらに動画生成機能を使って複数の動画を作成。それらの動画に意図的にサウンド（SE）をずらして適用し、「事故例」のデモ動画をAIだけで作成しました。

成果

口頭では伝わりにくかった「事故」を実物（動画）で見せることで、研修受講者の理解が深まりました。

利用者の声

「事故例を見て、サウンドに連絡する重要性がわかりました」と受講者からコメントがあり、AIのおかげで研修の質を高めることができました。

Gemini・ChatGPT活用でPhotoshop自動化！

ニッチなJSXコーディングもAIが解決！

課題

Adobe Photoshopの作業を自動化するためのスクリプト言語「ExtendScript (JSX)」は、日本語の文献や情報が非常に少なく、扱えるエンジニアも限られていたため、自動化のハードルが高い状態でした。

解決策

GeminiやChatGPTを活用し、実現したいPhotoshopの自動化処理を自然言語で指示。AIにJSXのコードを生成させました。

成果

情報が少ないニッチな分野であっても、AIがコーディングをサポートしてくれることで、これまで難しかったPhotoshopの定型作業を自動化する目処が立ちました。

利用者の声

JSXのようなマイナーな技術領域でも、AIに相談すればコードを書いてくれることに驚きました。ドキュメントを探し回る手間が省け、大量の文字画像を生成する際などの量産を含めた作業効率化が進みそうです。

Gemini APIを活用！

Slack常駐の社内AIエージェントが 仕様書検索やログ要約を代行！

課題

プロジェクトが長くなるにつれてConfluenceに仕様書が蓄積し、議事録やコードなども膨大になっていく中、必要な情報を探す「検索コスト」が高くなっていました。

解決策

Gemini APIを活用し、Slackに常駐するAIエージェントを開発・運用。AIエージェントはConfluence上の仕様書検索や、過去の議事録の要約、仕様とコードの整合性確認など、プロジェクト内のナレッジに深くアクセスできるよう設計されています。

成果

情報検索の時間が大幅に短縮されました。AIエージェントに聞けば必要な情報がSlack上で手に入るため、ドキュメントを探し回る手間がなくなり、開発効率が向上しました。

利用者の声

Slack上で「あの仕様どうだった？」とAIエージェントにメンションするだけで、コンフルを検索して答えをくれるので、今やチームに欠かせない一員です。

Gemini活用！

アセットモチーフの参考事例収集をAIで！

課題

デザインアセット（背景や建築など）のモチーフを検討する際、特定のルールに従い利用可能なモチーフかどうかを一つ一つ調査・判断する必要があり、専門的な知識と時間が求められていました。

解決策

Geminiを活用し、「特定の条件にヒットするモチーフを検索する」「モチーフとして利用可能な条件にマッチするか診断する」プロンプト（Gem）を作成し、チームで共有。

成果

モチーフ選定の初期段階でAIによるリスクスクリーニングが可能になりました。これにより、デザイナーや企画者が安心してクリエイティブ作業に進めるようになり、法務・倫理チェック前の手戻りリスクを低減できました。

利用者の声

モチーフ探しの段階で要件をAIに相談できるのは心強く、ナレッジとしてチームで誰でも利用できるため、属人化せずにモチーフの検討ができるようになりました。

Gemini活用でデータ最適化

スプレッドシートの大改修をGASで一括対応！

課題

サービスデータや言語データなどの複数のファイルを管理するスプレッドシートがあり、全シートに対して一括で「プルダウンの追加」「入力規則の再適用」といった修正を行う必要がありましたが、手作業では膨大な時間がかかる状況でした。

解決策

Geminiに依頼し、対象のスプレッドシートの全シートを横断して指定した修正（プルダウン追加、書式調整など）を実行するスクリプト（GAS）を作成させました。

成果

AIが生成したスクリプトを実行するだけで、手作業なら数日かかっていた可能性のある大規模な改修作業が一瞬で完了し、管理シートの利便性が向上しました。

利用者の声

何十枚、かつ何千レコードあるシートを一つ一つ手で直すことを考えると気が遠くなりそうでしたが、AIにスクリプトを作ってもらったことで、一発で終わり大変効率的でした！

Cursor+Notion活用！PRD作成もAIで！ Notion連携でPRD/機能仕様書の 作成プロセスフローを構築

課題

元々はPRD（要件定義書）のみで運用していましたが、開発・品質面での確認精度を上げるため、Cursor AIを活用したFSD（機能仕様書）作成を試験導入しました。

以前は「情報の分散」や「ドキュメントの未更新」が散見され、それに伴う不足情報の確認コストや手戻りの多発が大きな課題でした。

解決策

Cursor AIを活用し、PRD/FSD作成の標準フローを構築。AIが情報の分析・関連調査・考慮ポイントの提示を行い、不足情報を人間にヒアリングすることで要求を明確化します。成果物はマークダウン形式で出力し、GitHub上で管理する仕組みにしました。

FSD作成においては、単なる生成だけでなく、対話の中でAIから「考慮漏れ」や「改善提案」のフィードバックが得られる点も大きな特徴です。

成果

AIとの対話を通じて要求が明確化され、必要な項目が網羅された状態でドキュメントが生成されるため、作成工数が大幅に削減されました。属人化が解消され、効率的かつ質の高いドキュメント作成が可能になりました。

利用者の声

フォーマット統一により読み手（開発・QA）の確認コストも下がり、生産性が向上しました。この成果を足がかりに、現在はFSDの正式導入に向けた「項目定義・標準化プロジェクト」も始動しています。

NotebookLMで共有工数削減！
100ページの資料を素早くシェア＆
キャッチアップ！

課題	解決策	成果
半期ごとにマネージャーに展開される評価マニュアルは合計100ページにも及び、それぞれの人が内容を読み込み、理解するのに多大な負担と時間がかかっていました。	NotebookLMにマニュアル式を読み込ませ、音声解説（ポッドキャスト風）やQ&Aチャットが可能な状態でマネージャーに展開しました。	移動中に音声で概要をインプットしたり、疑問点をチャットで即座に解消したりできるようになり、情報の定着率と利便性が向上しました。

利用者の声	今回の変更点概要が音声解説でインプットできたり、疑問に思った点を各々がチャットで質問可能になり、マネージャーからも便利とのお声を頂きました。また、キャッチアップの工数削減にもつながりました。
-------	---

Gemini活用！動画制作を時短

BGM制作前に、AIでラフ動画を作成し サウンドイメージを共有

課題

ゲームのサウンドイメージをBGM制作に着手する前にディレクターとすり合わせる際、具体的なイメージを伝えるのが難しいという課題がありました。

解決策

ゲームイメージに近い画像をGeminiで作成し、その画像とサウンドのイメージ詳細を伝えたうえでBGMありの動画を作成してもらいました。

成果

BGM制作なしで、サウンドイメージの具体的なすり合わせが可能となり、制作にかかる時間を短縮することができました。

利用者の声

サウンドイメージを言葉で伝えるのはとても難しかったのですが、AIで作成した動画とサウンドを用いることでスムーズにイメージを伝えることができました！

Geminiを活用！

業務引継ぎ用の動画から業務マニュアルを作成！

課題

業務マニュアル作成に工数がかかりすぎるという課題がありました。

解決策

業務を引き継ぐ会議をZoomやMeetで実施/録画し、その動画をGeminiに渡してマニュアル化させました。マニュアル化する際は、まず構成案を作らせてレビューしてから詳細を生成させました。

1時間以上の動画は、Geminiが読み込めないのでご注意ください。

成果

細かな記述のミス等はあるものの、業務マニュアル作成の工数を大幅に削減できました。

利用者の声

業務引き継ぎをする会議中に質疑応答をすれば、それも反映した内容でマニュアルの下書きを作成することができ、とても便利です。

AIフル活用！1人で新規企画を短期立案！ 企画立案から提案まで、 全フローをAIとの対話と意思決定で実行

課題

通常業務と並行して新規企画検討を行う際、調査、資料作成、モック作成などの各工程に時間がかかり、無理なく進めることが困難でした。

解決策

企画立案から提案までの全フロー（企画立案、モック作成、調査レポート、スライド作成、インタビュー議事録など）でAIを活用。自分がやるのはAIとの対話と意思決定、アウトプットの最終調整、社内インタビュー（社内検証）のみに絞りました。

Google Meet、NotebookLM、Gemini（DeepResearch、Canvas、Nano Banana）Copilot（Claude Haiku）など、複数のAIツールを工程に応じて使い分けました。

成果

通常業務をやりながら並行して無理なく新規企画を検討し、提案まで実行できるようになりました。各工程の作業時間を大幅に短縮し、企画の質とスピードが向上しました。

MTGの前にDeepResearch実行しておき、MTG後にまとめた情報を確認するなど、並行で作業ができたことも便利でした。

利用者の声

自分がやったのは、ほぼAIとの対話と意思決定、アウトプットされたものの最終調整、ユーザーインタビューのみで、他AIがやってくれたため、大変効率的でした。

動画×Geminiで時短GAS作成！

テキスト入力不要！

録画面面からGASのコードを生成！

課題

業務効率化のためにGAS（Google Apps Script）を作成したいが、やりたい処理や条件をテキストで詳細に言語化・指示するのに時間がかかっていました。

解決策

ZoomやGoogleMeetなどで画面録画をし、「ここをこうしたい」と実際の画面を操作しながら説明する短い動画を撮影。それをGeminiに渡し動画の内容を理解させ、スクリプトを作成させました。

成果

前提情報をテキスト化する手間が省け、直感的な動画指示だけでベースのコードが作成できるため、開発ハードルが劇的に下がりました。

利用者の声

前提情報を伝えるのにかかる時間も手間も両方軽減できたのでおすすめです！

Vertex AIで1on1支援ツールを制作！ 議事録と社内ナレッジを掛け合わせ メンター育成をAIが支援

課題

新卒メンターの1on1スキルが属人化しており、教育体制も不十分だったため、効果的なフィードバックを得る機会が限られていました。

解決策

Meetの議事録をAIが解析し、社内ナレッジ（RAG）を参照して、メンターに対し具体的な改善フィードバックを自動生成する機能を開発しました。

1on1前のコンディションアンケート機能も実装し、対話の土台作りもサポートしています。

成果

1on1の対話内容と社内のベストプラクティスを組み合わせた適切なフィードバックが可能になり、メンターの成長支援につながっています。

メンターへの今後すべきTryや1on1中で気をつけるべき点など、コンテキスト情報が豊富なため、AIを用いて生成すると高品質なフィードバックの生成が可能になりました。

開発者の声

今後はさらに利用範囲を拡大し、全社の1on1品質向上に貢献していきたいと考えています。

GitHub Copilot活用！ 非エンジニアでもChrome拡張作成で Slackを便利に！

課題

Slackのチャンネル数が多く、セクション管理だけでは視認性が低く誤爆リスクもありました。

とはいえ、Slackの標準機能だけでは解消しづらく、AIでどうにかできないかと考えました。

解決策

AIでChromeの拡張機能実装ができないかと考えました。

業務のなかでこういうことができたら、と改善アイデアを思いついた瞬間にとりあえず生成AIに相談しながら試行錯誤できます。

成果

チャンネルによってテーマカラーを切り替えて分かりやすくするChrome拡張機能をAI（GitHub Copilot）で作成しました。外部チャンネルの場合は赤くするなど、関連性によってテーマが変えられるように設定しました。

実際の表示をみながらAIと修正相談をしていくことでリアルタイムに機能改善ができます。

利用者の声

特別な環境や開発ツールがなくてもAIのおかげで気軽にChromeの拡張機能を作成でき、視覚的にチャンネルを区別できるようになり使い勝手がよくなりました。

GeminiでGASのエラーを徹底回避！

「設計原則」と「制約条件」で手戻りを防ぐ GASプロンプト

課題

AIにプログラミング（GAS）を依頼しても、エラーが発生したり意図しない挙動になったりして、修正のやり取りに工数がかかることがありました。

解決策

「絶対にエラーを出さない」という堅牢性を最優先し、厳格な「設計原則」と「制約条件」を組み込んだプロンプトテンプレートを作成し、社内で共有しました。

Geminiに、これまでに発生したエラー対応を事前に防ぐためのプロンプトを作成して！と依頼すればいいのではと思い至りました。

成果

エラーの発生頻度が大幅に下がり、極力修正のいらない高品質なスクリプトが一発で生成できるようになりました。

利用者の声

おかげで、非開発者の自分でも”これ自動化できるかもな”と考えてから実現するまでのスピードが早くなり、チームとしてのAI化、自動化がグッと進んでいます！
また、社内でも共有し、誰でも気軽にスクリプトを作成できるようにしました。

Gemini Canvas + Google Sitesでプロト開発！ PdMによるプロトタイピングで 「触れる」仕様書へ！

課題

PRDや要件定義のドキュメントを作り合意形成する際、開発チームのフィジビリティや見積もりをスピーディに行う必要がある。特にBtoBtoCの場合、事前に実現することと予算の合意形成を精度高く行うことが重要。

実現方法やイメージ・UXの部分は言葉ではなかなか伝わりづらい。

解決策

PRDができた後、UXや業務フローに対する補足を入れ、GeminiのCanvas機能でプロトタイピング。それをhtmlでコピーし、Google Sitesに貼り付けることでチーム内に動作のプロトタイプを公開。

業務フローやUXのイメージ共有はフロントエンドの挙動を例示すると良さそうで、それならGeminiのCanvasで十分できると思い至りました。

成果

イメージやUXの共有が爆速になり、そこからの体験向上や、詳細な設計、実現方法の立案、工数見積もりの速度が上がったと同時に、手戻りも減った。

利用者の声

実装前に社内のイメージのすり合わせを十全にやることで手戻りを減らせる。実装コストを下げるためのAI活用としてうまく行った事例。プロトタイプをAIと一緒に作成し、開発リーダーとお互いに送り合う「交換日記」みたいな感覚でやりとりできたのも、スピーディにクオリティを上げる方法だった。